



Meiji University Computer Science Hardware Design Experiments

Report V 0.10 通常(対面)授業用 

REPORT_B35.pptx 12 Slides April 19th, 2020

<http://mikami.a.la9.jp/mdc/mdc1.htm>

Renji Mikami

Renji_Mikami(at_mark)nifty.com [mikami(at_mark)meiji.ac.jp]

B3-CSA HW 演習のすすめ方



演習内容について

内容は、A.講義演習編 B.設計開発編 C:課題発表編にわかれます。

- A.講義演習編では、板書と数理計算ソフトを使用して配布資料(演習テキスト問題(.EXnnn / **考察nnn**))を解きながら進めます。これをまとめてレポートにします。講義と板書に関しての解説資料が、演習WEBサイト右側の”情報科学、数学物理学関連導入”にあります。また板書と講義のビデオのリンクがありますから後日自分のペースで**予習**、**復習**ができます。
- B.設計開発編は、演習WEBサイト左側の“設計演習(デバイス)編をもとに実習をします。最終日に制作発表する課題に合わせて必要なものを選んで自修します。作成課題や演習選択などの不明点は質問してください。
- C.課題発表は、4回目にチーム単位で発表用Wikiサイトを使って行います。サイトには、これまでの課題製作例がたくさんあります。

B3-CSA HW 演習 1-4回の内容



演習 1-3 日目

1から6項を講義演習編の配布テキストと板書による講義と演習を行います。配布テキストの各問に解答や考察点を書き込みながら進みます。

この各問をまとめてレポートを作成します。

演習や考察点などお互いに議論したり教えあったりして進めてください。

不明点などはどんどん質問してください。

A.講義演習編とB.設計開発編双方をとりまぜて進めます。

演習 4 日目

Wiki を作成しWiki を使ってプレゼンしてください。

開始時間は、進捗状況を見ながら午後4~5時頃とします。

B3-CSA HW演習 レポート課題

S

演習 1-3 日目のレポート課題

- 1.板書と演習課題を課題番号**EXnnn**を付記して簡潔にまとめてください。
内容は、何をしたかではなく、その演習の”要旨”とします。
2. 考察課題を考察番号 **考察nnn**を付記してレポートにまとめてください
- 3.疑問点やコメントをリストしてください。演習課題、考察課題がわからなかった場合も疑問点としてあげてください。(内容を選んで次の演習でとり上げたいと思います)

演習4日目のレポート課題

制作した研究テーマをレポートにまとめてください

- 1.テーマとねらい、そのためのアプローチ
- 2.内容 (論理性と客観性-数値データ、引用、参照を明示して)を簡潔にまとめてください。
- 3.一番苦労したところ、難しかったところを書いてください。
- 4.今後どのようにしたいか、展開の可能性があるかなどを書いてください。
尚、考察が感想にならないようにしてください。

全4回の課題とレポート

Guidancs_B3.pptx から

S

HP中段に全4回の課題とレポートが示されています

● 第一日目 概要とツール解説

第一日目 予習復習ビデオ [PSOC B2 1](#)

課題とレポートについての解説(オプションは時間があればやること)

講義資料 [EM1.pdf](#) (PSoC Overview, Signal Processing)

講義資料 [EM2.pdf](#) (PSoC Architecture)

講義資料 [embedded_lab.pdf](#) (組み込みシステム)

演習資料 [p3_1200hz.pdf](#) (Miniprogram)

演習資料 [hello_world.pdf](#) (ビルド)

演習資料 [motor.pdf](#) (オペアンプ)

演習資料 [lab1_pwm.pdf](#) (PWM)

演習資料 [lab2_pwm_lcd.pdf](#) (音階発生とクローンプロジェクトの作成)

参考資料 [テクニカルリファレンスマニュアル](#)

参考資料 [ユーザーモジュールデータシート\(日本語版\)](#)

● 全4回の課題とレポート

レポートは手書き(鉛筆可)です。(図版,ソース,引用資料リストなど添付資料等は印刷物でもかまいません)使用言語は、日本語または英語とします。

レポート用紙右上空白部に、必ずチーム番号を記入してください。

全4回のレポート [REPORT_B25.pdf \(V2.50版\)](#) 2016年以降用

第4回目のレポートについては、他のチームの講評も含まれますので、他のチームの発表もよく聞いておいてください。

過去の履歴については、前年度のHPを参照してください。

オンラインの場合は、REPORT_B35.pdf (このスライド)が掲載されています。対面授業用と間違わないように注意してください。レポートは、クラスウェブで提出してください。期限は別途定めます。

成績評価とレポート採点の基準

成績は演習状況点60%、レポート評価点40%の比率です。
演習状況点：積極的に演習に取り組んでいれば満点
減点対象：欠席、遅刻、演習にまじめに取り組んでいない場合など
やむなき欠席などは、早めに連絡してください。

レポート採点基準：4回、各回10点満点

評価はD,C-,C,C+,B-,B,B+,A-,A,A+,Sまでの0-10段階

- 1.分量としてA4 4ページ程度は書いてください。[4]
- 2.自分の言葉による内容、独自性、論理性、考察を重視します。[2]
- 3.必要に応じて図、計算式、数値、引用を明記してください。[2]
- 4.なるべく、丁寧に書いてください。[2]
- 5.計算や結果に間違いがあっても減点の対象にはしません。

減点対象：盗用、コピー、粗雑な内容、議論、体裁

CSA-B3 HW演習 1-4回の内容

S

演習 1-3 日目

1から6項を講義演習編の配布テキストと板書による講義と演習を行います。配布テキストの各問に解答や考察点を書き込みながら進みます。

この各問をまとめてレポートを作成します。

演習や考察点などお互いに議論したり教えあったりして進めてください。

不明点などはどんどん質問してください。

A.講義演習編とB.設計開発編双方をとりまぜて進めます。

演習 4 日目

Wiki を作成しWiki を使ってプレゼンしてください。

開始時間は、進捗状況を見ながら午後4~5時頃とします。

CSA-B3 HW演習 レポート課題



演習 1-3 週目のレポート課題

1. 板書と演習課題を課題番号 **EXnnn** を付記して簡潔にまとめてください。
内容は、何をしたかではなく、その演習の”要旨”とします。
2. 考察課題を考察番号 **考察nnn** を付記してレポートにまとめてください
3. 疑問点やコメントをリストしてください。演習課題、考察課題がわからなかった場合も疑問点としてあげてください。(内容を選んで次の演習でとり上げたいと思います)

演習4週目のレポート課題

課題 4-1:制作した自由課題をレポートにまとめてください

- 1.テーマとねらい、そのためのアプローチ
- 2.内容 (論理性と客観性-数値データ、引用、参照を明示して)を簡潔にまとめてください。
- 3.一番苦労したところ、難しかったところを書いてください。
- 4.今後どのようにしたいか、展開の可能性があるかなどを書いてください。尚、考察が感想にならないようにしてください。

課題 4-2:最終日発表の他チームの”課題”を2つ取り上げ講評してください。取り上げる”課題”は、1つは、最も技術的に優れていると思うもの、他のひとつは、アイデア、発想、デモンストレーションなどが優れていると思うものを選んでください。

レポートの書き方について1-4

S

1. レポートは**手書き**とします。鉛筆使用もOKです。図版やリストは印刷物の貼り付けでも構いません。
2. 内容について：**具体的客観的なデータ**をもとに、**論理的に展開**してください。(視点の独自性があればなおよい) **結論の正誤は評価に影響しません**。
3. 具体的客観的なデータとは：**設計、実験の数値データ、計算式、数式**などが示されていること。(第三者による再現性を担保すること)引用がある場合は、引用先を明示すること。
4. 正確性：**数値や固有名詞に誤りがないこと**、あいまいさを回避するためには必要に応じて、使用する語彙に“文中で使用する場合の”定義を与えておく。

レポートの書き方について5-6

S

5.論理的な展開について(参考：論文的形式)

はじめに：概要、背景、問題意識などを簡単に述べ、全体を要約する。(全体=項目の集まり)

各項目では、結論を先に述べる。

続いて結論に至る過程を述べる。

6.“感想”とは、主観的感覚的なものです。これに対し考察は事実に立脚しそこから論理的に展開されたものです。考察が感想にならないように注意してください。(考察と感想を併記する場合は、両者をきちんと区別して書いてください。)

レポートの書き方について 7-9

S

7. レポートは、事実に立脚する部分は正確でなければなりません。仮説、推論、考察などに関しては論理的に展開し自分の言葉で自由に表現してください。直観、イメージ、インスピレーションを大切にしてください。これらは、時に論理を超えて真実に迫ります。論理が後を追いかけます。
8. 結論に誤りがあっても、それに気づくことで理解が深まります。演習の目的は、直観力、自由な発想、理解力と論理的展開力を身につけることにあります。誤りを怖れる必要はありません。今日著名な大学者も間違いと訂正を繰り返しています。進歩は、間違いに気づくところから始まります。(間違いに気づいたらシメタとってください。)
9. 各回の講義、課題演習、レポートが難しく見えても、次の回で視点を変えて再解説しますから、回を重ねれば分かります。不明点は、レポートに書いてください。質問と議論してください。

Memo

フォローアップURL (Revised)

<http://mikami.a.la9.jp/meiji/MEIJI.htm>

担当講師

三上廉司(みかみれんじ)

Renji_Mikami(at_mark)nifty.com

mikami(at_mark)meiji.ac.jp (Alternative)

http://mikami.a.la9.jp/_edu.htm

